

あなたの ところにも

大学宗教主任 和寺 悠佳



クリスマスに、イエス・キリストはマリアからお生まれになりました。救い主を産むという務めを与えられたのですから、マリアはきっと特別な人だったと思われるでしょう。聖書はマリアについて、ナザレに住む、「ダビデ家のヨセフと言う人のいいなすけであるおとめ」(27節)と記しています。いいなすけであるおとめとは、婚約中である未婚の女性ということです。この時代、女性が婚約することは普通であり、婚約中ということはまだ正式に結婚していないですから未婚であるのも当然でした。マリアについて、聖書はこれ以上のこと記していません。容姿や能力が優れていたと記されている女性も聖書には登場しますが、マリアはそんな女性ではありませんでした。もし、マリアが美人だったり、優秀だったりしたら、聖書はそう記すはずですが、そうは書かれていません。「ヨセフのいいなすけであるおとめ」とは、マリアはごく普通の女性、どこにでもいるような特に目立たない女性だったということです。そんな普通の人が、救い主イエス・キリストを身ごもり、イエス・キリストを産むという務めを与えられました。

マリアは神様が自分に与えてくださった務めに驚き、そんなことはあり得ないと一度は抵抗しましたが、神様にできることは何一つないと知り、「お言葉どおり、この身になりますように」(38節)と神様の思いを受け入れました。神様の思いに従うことが、自分がすべきことであると気づいたのです。



ルカによる福音書 第1章26, 27

天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフと言う人のいいなすけであるおとめのところに遣わされたのである。

神様は私たち一人ひとりを創造されました。あなたが必要だと、命を与えてくださいました。そして、その一人ひとりに、神様の思いを伝えて、それを受けたほしいと願っておいでです。どんなに目立たない、普通の人にしか見えなくとも、その一人ひとりに対して神様は呼びかけられます。ごく普通の女性だったマリアが、救い主イエス・キリストを身ごもるという務めを与えられてそれを受けたように、たとえ自分は平凡なつまらない人間でしかないと思っていたとしても、そのあなたのことを神様はご覧になっています。そして、あなたに神様の思いを受け入れてほしいと語り掛けてくださいます。

神様の思いとは私たちを救うことです。あなたを救いたい、という神様の思いを私たちは知らされました。マリアは神様の思いを受け入れて、イエス・キリストを身ごもりました。自分の中に、救い主を受け入れました。神様は言われます、「あなたにも救い主イエス・キリストを受け入れてほしい」と。

クリスマス——救い主は、あなたのところにも来てくださいます。どんなに普通で平凡な人のところにも、救い主は来てくださいます。マリアの胎内にイエス・キリストが来られたように、あなたの中にも救い主は来られます。イエス・キリストは、あなたの中に来てくださる。イエス・キリストはそれほど近くに来てくださった救い主です。救い主イエス・キリストを自分の内にお迎えしましょう。